特例子会社におけるWRAPワークショップの導入

－安心して話せる場所づくりを通して実施する定着支援への取り組み－

○ 明石 幸子（株式会社DNPビジネスパートナーズ　事業開発部）
○ 居山 小春（大日本印刷株式会社　Lifeデザイン事業部）
國行 淳（株式会社DNPビジネスパートナーズ　事業開発部　部長　精神保健福祉士）

1. 株式会社DNPビジネスパートナーズ　会社概要

1）本社所在地
　東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

2）設立
　2019（平成31）年2月1日
　同年10月に大日本印刷株式会社の特例子会社として認定

3）資本金
　1千万円（大日本印刷株式会社100％出資）

4）従業員数　　115名　＊うち、障がい者：76名
　　（2025年4月1日現在）

2. DBPの定着支援の施策

1）社員の個別支援
社内のメンター・上司などが一緒に行い、社外の支援員とも連携

2）DBP勉強会
①入社1年目の社員： コミュニケーションスキル、セルフケア 等
②各職場で行う業務の習熟、スキル向上のための勉強会

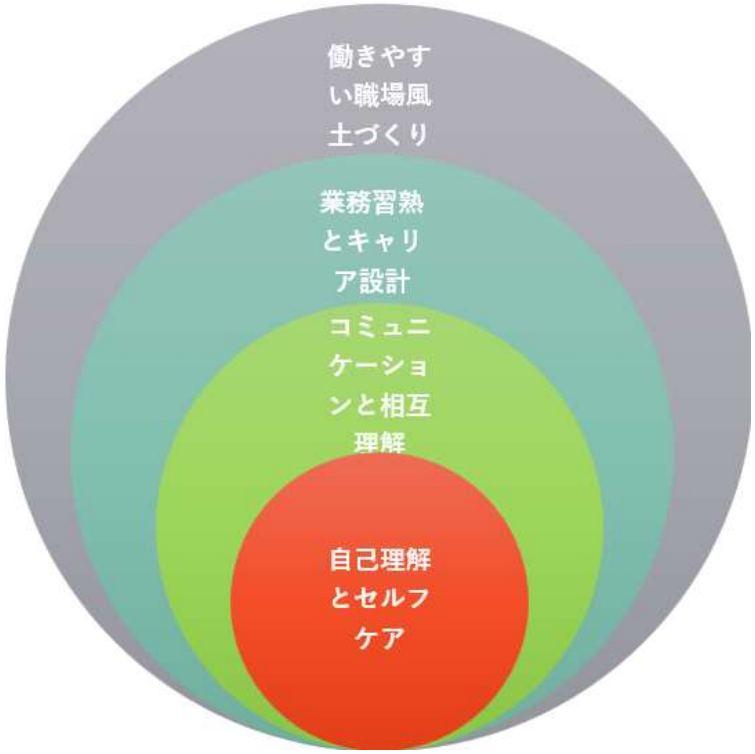
3） 障がい理解のための社外講座の受講奨励
・精神・発達障害者しごとサポーター養成講座（全社員に推奨）
・職場内障害者サポーター養成講座（現場リーダー・管理者など）

4）WRAP（Wellness Recovery Action Plan）

3. 職場の課題感（全管理職へのヒアリング）

	DBP特有のニーズ	一般に必要とされるが DBP用にアレンジが必要
一般社員（主に障がいのある当事者）	相談力 自己理解 障がい特性を説明する 周囲の理解・サポートを求める 生活習慣（運動・睡眠・食事） 金銭管理 人間関係（家族を含む）	コミュニケーション（手話も含む） ストレスコーピング アンガーマネジメント D&I（他者の受け入れ） 「報・連・相」 挨拶 電話対応 ビジネスマナー一般
管理職（現状 健常者が多い）	障がいの知識 OJTの知識 （口頭・マニュアルだけでなく やってみせる・写真/見本を見せる 等） 社外の専門機関に関する知識 社外の専門家へのヘルプの求め方/渡し方	引き出す会話（対 発達障がい・精神障がい） 社員に任せていくこと/自身が疲弊しないこと 次世代の管理職(候補)育成 管理職一般 風土醸成（障がいをオープンにするかも含む）

4. 定着支援の施策　枠組みづくり



働きやすい職場風土づくり

- 自立した個人・職業人(プロフェショナル)としての意識
- 風土づくりのために自分がチームのためにできることをしていく

業務習熟とキャリア設計

- 会社・上司から求められていることを知る
- 自分が成長したい分野（自己啓発）を磨く
- 人生を通しての仕事の位置づけ/どう働きたいかを考える

コミュニケーションと相互理解

- 自分のための「取扱説明書」をつくるワーク（WRAP/ナビゲーションブックの作成）
- グループワークを通して他者の視点を取り入れる
- 自分の「取扱説明書」をつくり上司や同僚に説明する

自己理解とセルフケアの習慣づくり

- BWAP2によるアセスメントとフィードバック
- メンタル面のセルフケアの学習と練習（リラクゼーション・認知トレーニング）
- DNPグループで求められるビジネスマナーの基本を学習

5. WRAPとは？

Wellness Recovery Action Plan

元気　回復　行動　プラン

「Wellness Recovery Action Plan 」の略 日本語では「元気回復行動プラン」

1. メンタルヘルスに困難を持つ当事者たちが体系化したセルフケアの方法

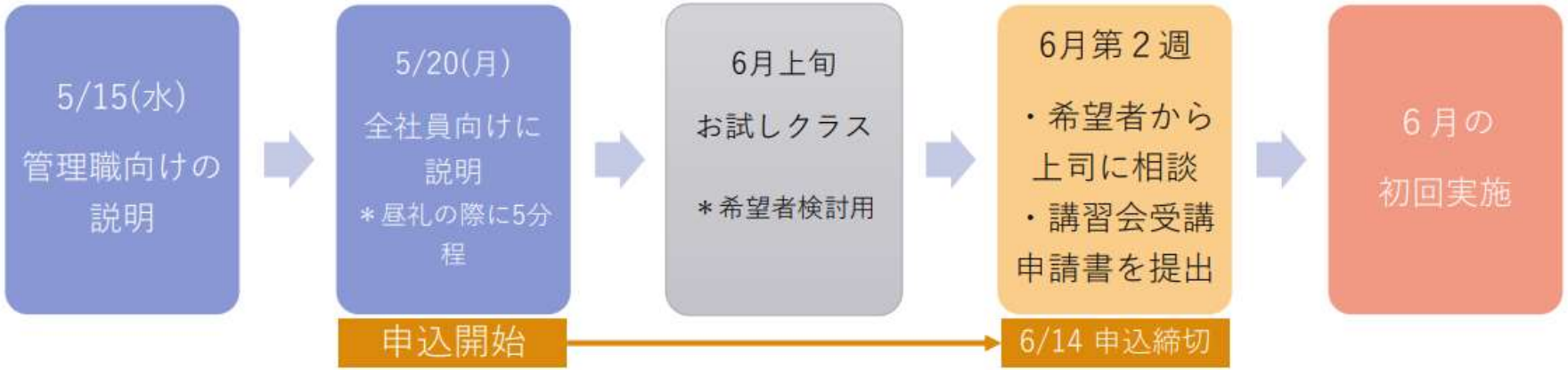
2. アメリカ連邦保健省薬物依存精神保健サービス部（＝SAMHSA）で根拠ある実践（EBP：Evidence-Based Practice）と認められている

6. ファシリテーター　サポーター

担当WRAP®ファシリテーター：
事業開発部　明石 幸子

サポーター，コ・ファシリテーター：
DNP Lifeデザイン事業部
(兼)ＤＢＰ 事業開発部　居山 小春

7. WRAPワークショップ 導入までのスケジュール



8. 今後に向けて

１．通常クラス

2025年度は、通常クラスとして新たなメンバーでWRAPワークショップを実施している

２．SpinOffクラス

2024年度の参加者には、「SpinOffクラス」として、希望者を対象に通常クラスとは異なる新しいテーマでのWRAPワークショップを実施している